災害発生

まず、自分自身の安全を図る

緊急地震速報を聞いたり、揺れを感じたりしたら、柱や壁際に身を寄せる、クッションや布団で頭を守るなどの行動を取りましょう。
冷静に、その場に合わせて身の安全を図ることが大切です。

無理してガスコンロや暖房器具の火を消すことはやめましょう

やけどや火災の危険性があります。
揺れがおさまってから、対処しましょう。

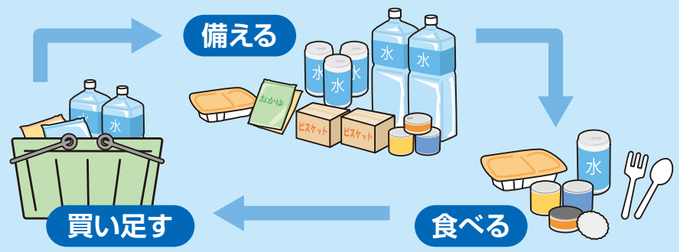
あわてて屋外に飛び出さない

落下物や割れた窓ガラスなどでけがをする危険があります。

ローリングストックとは

日頃から利用している食料や日用品を少し多めに買い置き、普段の生活の中で定期的に使いながら新たに買い足し、常に一定の備蓄量を保つ方法です。

＼日常的にやろう！／



自分の身の安全が確保できたら

安否確認と情報収集

家族や大切な人たちの安否確認や情報収集を行いましょう。

安否確認・情報収集の手段は？ → 情報を上手に使おう

自宅にとどまる

在宅避難

自宅建物が火災や倒壊の危険がないときはあえて避難する必要はありません

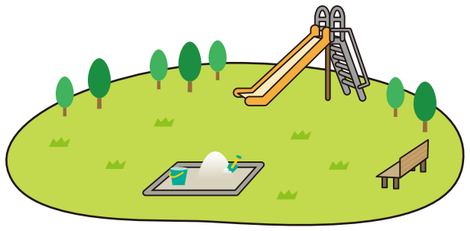
自宅で生活を続けるために

● 生活物資を備蓄しよう

港南区在宅避難

避難する

いっとき避難場所　公園や広場など



次の避難場所に移動する前に一時的に集まり、被害状況を確認する任意の場所

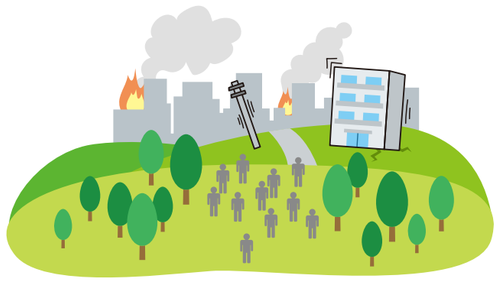
※場所やルールは自治会町内会で決めていますので、確認してみましょう

自宅が無事なら → 帰宅

自宅・知人宅で生活できない場合 →

近くで大規模火災 ↓

広域避難場所　大規模公園や団地など



大規模火災から生命・身体を守るために一時的に避難する場所

詳しい場所は裏面へ

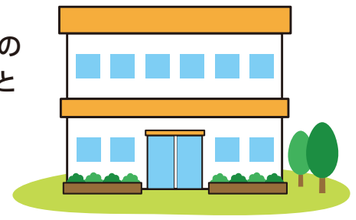
自宅が無事なら → 帰宅

自宅・知人宅で生活できない場合 →

自宅で生活しながら物資や情報を入手

福祉避難所　福祉施設など

地域防災拠点等での避難生活が難しいと判断された人の二次的な避難所



保健師などの専門職が、本人の状況などを確認し、福祉避難所への避難の必要性を判断します。

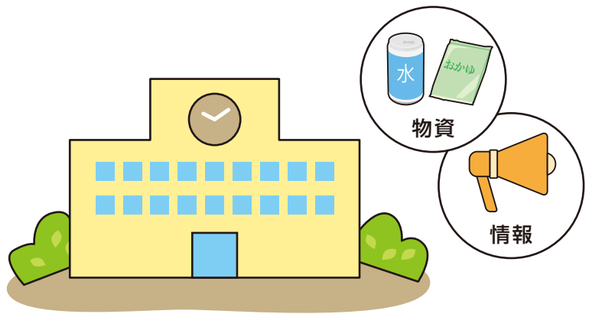
※専門職などの判断を基に、受け入れ先は区が選定

詳しい場所は裏面へ

地域防災拠点等での生活を維持することが困難で、特別な配慮を必要とする場合 ↑

地域防災拠点　学校

地域防災拠点では
備蓄物資や**災害等の情報**が得られます。



地震により自宅を失う、または破損等により居住することができなくなった人が避難したり、在宅避難者が物資や情報を入手したりする場所です。
（あらかじめ指定している小・中学校）

詳しい場所は裏面へ

横浜市内で震度5強（気象庁発表）以上の地震が発生した場合には、すべての地域防災拠点を開設します。

※備蓄物資は必要最低限しかありません。
自宅の備蓄品を持ち寄りましょう

訓練に参加しよう

地域防災拠点の避難地域は区割りしていますが、状況に応じて指定の地域外からの避難者も受け入れます。